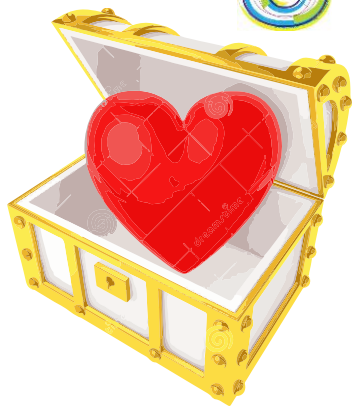


8



「与える」とは 僕らの ライフスタイル

「あなたがたの富のあるところに、
あなたがたの心もあるのだ」
(ルカ12・34)

「心」は、人の奥深く見えないものでありながら、大きな影響力で私たちを生かすもの。
「富＝宝」は、最も価値あるものとして、現在と未来に安心を与えてくれるもの。

「心」はまた、日々何を選び取るかの価値観をつかさどるところで、私たちが人生で一番大切なものは何だろう、と模索する秘密の場所でもあります。自分に問いかけてみましょう。



自分は何を
本当に最優先
させているだろうか？



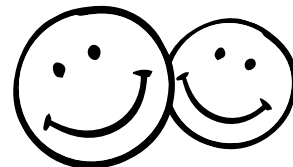
他のすべてを置いて、求め得ようとする私たちの「宝」とは何でしょう？



この社会では、何もかもが、ひたすらモノを所有し、自分の必要だけに集中するよう煽ってくるように感じませんか？

キアラが語ってくれます：

「なぜイエスは富から執着を断つよう強く求め、弟子としての不可欠な条件とされたのでしょうか。」



様々な執着や心配から自由になって、私たちが幸せになるようイエスは望んでおられます。自由になって初めて心と思い、力を尽くして、イエスを愛することができるからです。

イエスはまた、所有欲にノーと言うことで、隣人に心を開くように招いています。

そのための
一番簡単な方法は、
『与える』ことです。」

キアラ・ルービック 2004年9月

行動にうつしてみよう

与えることから湧き出る喜び

私たちには思いのほか、分かち合えるたくさんものがあります。心の中の愛情や思いやり、喜びも分かち合うことができます。

自分の時間、祈り、内面的な豊かさも与えられるものだし、モノや本や洋服、自転車、お金などを分かち合うチャンスもあるでしょう。



神様が私たちに地上の富を下されたのは、みんなの役に立つように使うためです。花や草木が土から、生きるのに必要な分だけ吸収するように、私たちも必要な物だけをとっておきましょう。

切って折ると、今月持ち運びができるカードになるよ！

僕らの経験：



コンゴの小さな村に住むマベは、毎朝リオネルと学校に通っています。リオネルはまだ小さくて、学校は遠く、森の中を通らないといけません。でも今朝リオネルは自分の友だちと学校へ行っていました。学校から帰ったマベがリオネルの家によると、リオネルが泣いています。靴を履いていません。誰かが靴を盗んだのです。リオネルのお母さんは怒鳴っています。「靴がなければ明日学校に行けないじゃないの！」

マベは急いで家に帰り、自分の靴を一足取り出し、お母さんと相談してから靴屋さんに行き、その靴を治してもらい、念入りに磨いてもらいました。それからリオネルのところに喜んで持っていきました。次の日、また二人は一緒に学校へ行きました。

アルゼンチンのアルトゥールが道で友だちと遊んでいたとき、パブリートがやってきました。パブリートは貧しい子で、道で物乞いをしています。「僕も一緒に遊んでいい？」とパブリートは聞きました。みんなパブリエットの汚れて破れた洋服を見て、誰も一緒に遊ぼうとは思いませんでした。

アルトゥールも一瞬考えました。でも、「この子だって僕の友だちだから、僕は一緒に遊ぼう！」と決めて、自分のチームに入れてあげ、楽しく遊びました。

今日はアルトゥールの誕生日。ピンポン！とチャイムが鳴ってアルトゥールは駆け寄ってドアを開けます。パブリートでした！

「はい、これ」と包みを差し出します。「これ、君に。」

開けてみると、素敵なミニカーが入っています。

「今日道で恵んでもらったお金で買ったんだ」とパブリートは嬉しそうに言いました。

